

製品名: ETS1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10649**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	ETS1
別名	ETS1; EWSR2; Protein C-ets-1; p54
遺伝子 ID	2113.0
SwissProt ID	P14921
免疫原	抗血清はヒト ETS1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 11-60

背景

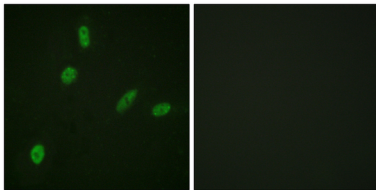
この遺伝子は、標的遺伝子のコアコンセンサス DNA 配列 GGAA/T を認識する保存された ETS DNA 結合ドメインの存在によって定義される転写因子の ETS ファミリーのメンバーをコードします。これらのタンパク質は、多数の遺伝子の転写活性化因子または転写抑

制因子として機能し、幹細胞の発達、細胞の老化と死、および腫瘍形成に関与しています。この遺伝子については、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが記載されています。[RefSeq 提供、2011年7月]、疾患: ETS は、赤芽球および線維芽細胞の形質転換に関与しています。インターフェロンと c-ETS-1 プロトオンコ遺伝子の並置は、ヒト単球性白血病の病因に関与している可能性があります。、機能: 転写因子。、PTM: Lys-15 および Lys-227 が SUMO2 によって優先的に SUMO 化されます。転写活性を阻害する。、PTM: ユビキチン化され、プロテアソーム分解を誘導する。、類似性: ETS ファミリーに属する。、類似性: ETS DNA 結合ドメインを 1 つ含む。、類似性: PNT (尖った) ドメインを 1 つ含む。、サブユニット: MAF および MAFB と相互作用する (類似性による)。DAXX に結合し、UBE2I と相互作用する。、

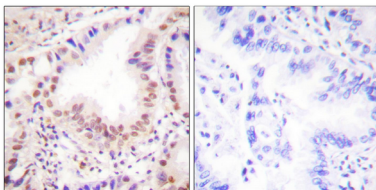
研究分野

背腹軸の形成;がんの経路;腎細胞癌;

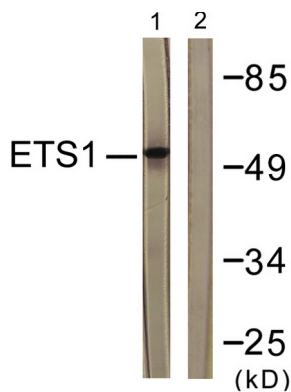
画像データ



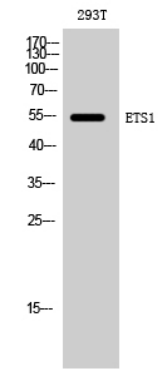
ETS1 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



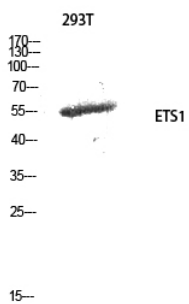
ETS1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



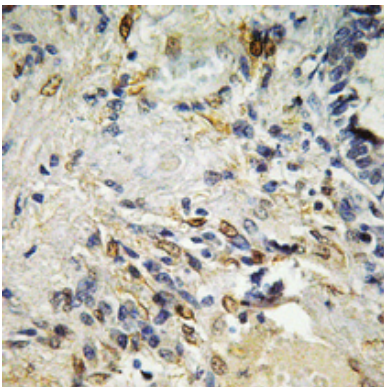
血清 20% 15 ' で処理した HeLa 細胞ライセートの ETS1 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



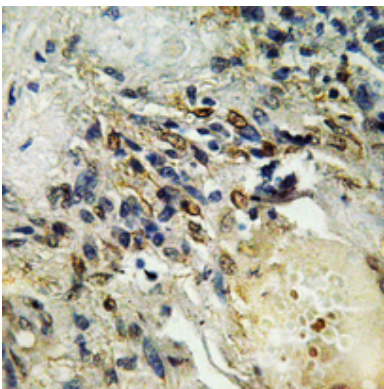
1: 1000 に希釈した ETS1 ポリクローナル抗体を使用した 293T 細胞のウエスタンブロット解析。



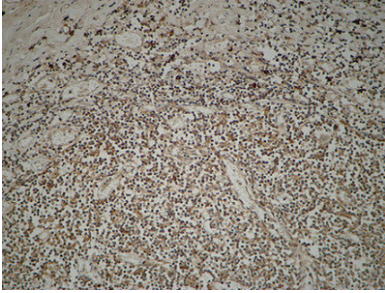
1: 1000 に希釈した ETS1 ポリクローナル抗体を使用した 293T 細胞のウエスタンブロット解析。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温 Tris-EDTA (pH8.0) を使用した。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温 Tris-EDTA (pH8.0) を使用した。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。